2015年原水禁世界大会in広島・長崎
青年ツアーに参加して

京都平和委員会青年学生部

戦後70年、被爆70年の世界大会。今年は広島、長崎両方で世界大会が開かれました。私たちは長崎大会に参加しましたが、広島から通しで参加した青年もいます。

今年はNPT再検討会議後初の世界大会でもあり、戦争法案をめぐる闘いの真っただ中で行われた大会でもありました。また、今年は従来の学習・交流にくわえ、Ring! Link! Zeroでは長崎市内を行進するなど、青年がおおいに行動した大会でした。

被爆者の思いとともに進みたい

阿比留高広

核兵器の残酷さ、危険さは言うまでもないことですが、核兵器をなくすこともまた簡単でないということも言うまでもありません。どうしたら核兵器をゼロにできるのか。いろいろな方法はあると思いますが、もっとも根本的な部分では、被ばく者の声を広めるということがあります。しかし今、被ばく者が絶滅の危機に瀕しています。私は本当の地獄を味わった人たちの口から面と向かって直接話を聞きたいです。だから原水禁に参加しました。

今回で原水禁参加は4回目でしたが、毎回全く違う被ばく体験が聞けるので新鮮です。予想していたような証言内容もあれば全く予想できないような内容もあります。今回は後者でした。

今回の証言は、被ばく者でありながら被ばく者扱いされていない人たちについての話でした。被ばく者認定範囲は、行政上の都合のみで線引きされたものです。距離的には被爆者と認定されている人たちと同心円上、もしくはそれより近い地域に住んでいても、被ばくと判定されない人たちが今でも数多くいます。アメリカでは戦後補償対象にされた距離が爆心より16kmであるのに対し、被ばく国の日本ではいまだに10kmにも及ばない範囲にとどまっています。明らかに放射能の影響で当時幼い兄弟をなくされた方、親をなくされた方の話を聞きながらなお彼らを被ばく者と認定しない、したくない、行政の態度に腹が立つ一方で、この態度の裏には何があるのかを考えていかないと、同じような悲劇がこれからも何度でも生じると思いました。被ばく者でありながら被ばく者として扱われていない彼らの現状も伝えていきます。

私たちは、どれだけ頑張っても当時の地獄もその後の差別も直接体験することはできません。しかし、当時の話を体験者から聞いて、その状況を身近に感じ、これからに生かすことならいくらでもできます。被ばく者はお金がもらえるから、名誉が得られるから証言をしているわけではありません。本当は思い出したくもない過去を口に出しているのは、つらい経験を思い出してでも、子供や孫たちにこのような経験を何としてもさせたくないからです。被ばく者のその思いとともに進みたいです。

これからも平和求めて運動に参加していこう

広山　永成

私は今回、戦後70年という節目に当たって、原水爆禁止世界大会に初めて参加しました。戦争法案に反対する運動が広がる中で、核兵器廃絶や原発をなくすことに声を上げていくことが、不可欠であると感じさせられる大会でありました。というのも、核の技術は戦争と不可分のものであり、また核兵器は一時の被害に止まらず後世になっても被害を残し続ける悪魔だからです。その時代に生きる人々の判断で使用した核兵器が、ずっと後世に影響を及ぼし続ける。そのような選択をすることは、あまりにも無責任であると思います。

戦争も後世に大きな爪痕を残します。今も戦争の傷痕に悩み苦しみ続けている人がいるなかで、もう戦争は絶対にしないこと、核とは縁を切ることは現代を生きる我々の責務であると今回の世界大会で痛感しました。

現在、安部政権は戦争へと突き進むべく戦後レジームからの脱却を試みていますが、そういう人達こそ、このような運動の空気に触れ、戦争の悲惨さを学んで欲しいです。

2日目の分科会では、アジアの平和のための日本の役割について勉強しました。日本は侵略と植民地支配をアジア地域一帯で行い、その中で極めて非人道的で強く弾劾されなければならない人権侵害を繰り返しました。現在の日本社会に生きている我々も加害の責任を重く受け止めなければなりませんし、何回か謝罪したからもう謝る必要はないということではないと思います。加害責任を真摯に見つめないからこそそのような無神経な発言が蔓延るわけで、加害者を許すのは被害者自身です。これからも反省の上に立ってその上で、むしろそうだからこそアジアの平和のために日本が先導を切る必要があります。それは安部政権が進めている積極的平和主義というまやかしのものではなく、軍事的結びつきに頼らない協調と協同に基づくものでなければなりません。分科会でインドの方も軍事同盟の色合いを排したアジア経済統合組織のようなものを創設した方が良いと仰っていたのを聞いて成る程と思いました。アジアの平和のために世界の平和のために真剣にみなで考えていくことが今求められています。

原水爆禁止世界大会に行く前は、まさかここまで核廃絶や戦争法案反対の運動が盛り上がりを見せているとは思っていませんでしたが、自分と同じような思いを持った人々がこんなに大勢いるのかと思うと、何故か後押しされているような思いになったというのが正直なところです。運動に参加する人々の間にも温度差はかなりありますが、様々な人々や組織と交流をするなかで、連帯を強めていくことも今後必要であろうと感じました。これからも人権が大切にされ、平和である世界を求めてあらゆる運動に参加していこうと強く思いました。

［編集後記］

今年の夏は昨年の異常気象に続き、本当に暑い日が続きました。熱中症などに苦しめられた方はおられませんでしたでしょうか。

気候が暑いだけでなく、国会の内外であつい闘いが続いています。なんとしても「戦争法案」を廃止にと、全国のたたかいに合流しましょう。